

偉大なる北溟の自然

(昭和三十九年寮歌)

司馬威彦君 作歌・作曲

序

偉大なる北溟の自然は
我が眼前に限りなく広がりて
野に満てる清冽の気は
雄々しくも気高き情懷もて
嶮路遙かに辿り来し
遊子が胸を今や満しぬ

一

颼々^{ひょうひょう}の北風^{きたかぜ}は荒^{すさ}び
白銀^{しろがね}の華^は大地^{はなだいち}覆^{おほ}えど
そはろかなる古^{いにしえ}より
汚^{けが}れなき美^みの世界^{せかい}なれば
若人^{わこうど}はひたぶるの
愁^{おも}いを秘^ひめて
異邦^{あこが}ゆ憧憬^{つど}れ集いぬ

二

いよ増^{ます}す静寂^{しじま}のなかに
永劫^{えいこく}の影宿^{かげやど}す原始^{げんし}の深森^{ももり}よ
先哲^{せんてつ}の行路^{あんど}を慕^{した}いて
思索^{おもひ}胸^{むね}に榆陵^{おおか}を歩^{あゆ}めば
仰^{あお}ぎみるエルム^わの梢^{こすえ}に
萌^もえ出^{いで}ん若^{わか}き情熱^{じやうねつ}は

三

かりそめの宿^{やど}にはあれど
忘れ得^えじ若^{わか}き日^ひの遍^{たひ}歴^り
彷徨^{さまよ}えば夕陽^{ゆうひ}の榆陵^{おおか}に
宵闇^{よいやみ}はかそけくも訪^{おしず}れ
睡^むみてし真^{こころ}心^{こころ}と友情^{ゆうじやう}に
篝火^{かがりび}は赤^{あか}く燃^もえたり

四

輝^{かがや}ける北国^{きたくに}のたくみよ
されど優^{まさ}りて美^{うつく}しき自治^{じち}の伝^{つた}統^えよ
斗^{たたか}い苦惱^{くなや}み寮友^{りやうとも}と語^{かた}れば
な^などて疾^{はや}く過^とぎ行^ゆく二^{ふた}年^{とせ}の春^{はる}
願^{ねが}わなん永^と久^{きう}の栄^はえを
恵^{けいて}迪^きの寮故郷^{りやうこきやう}の上^えに

結

されど視^みよ我等^{われら}が周囲^{あたり}を
邪惡^{よこしま}なる権力^{けんりき}は四方^{よも}に荒^{すさ}び
我等^{われら}が愛^{あい}し誇^{ほこ}らん自治^{じち}の砦^{とりで}に
暴逆^{ぼうぎやく}の誠^{まこと}は課^かされんとす
されば我^わが寮友^{りやうとも}よ腕^{かひ}むすびて
今^{いま}ぞ正義^{せいぎ}の旗^{はた}を高^{たか}くかかげん